

近世後期金融証書類概要

1: 文書群番号	085002
2: 文書群名	近世後期金融証書類
3: 出所	-
4: 家業・役職等	-
5: 地名	1. 摂津国武庫郡中浜新田／兵庫県武庫郡中浜新田／武庫郡大庄村中浜新田／尼崎市中浜新田／尼崎市中浜町ほか 2. 摂津国川辺郡杭瀬村／兵庫県川辺郡杭瀬村／川辺郡小田村杭瀬／尼崎市杭瀬／尼崎市杭瀬北新町ほか
6: 行政区分	1. 尼崎藩領／兵庫県第7区／西新田組戸長役場／大庄村／尼崎市 2. 池田重利領／尼崎藩領／兵庫県第11区／長洲組戸長役場／小田村／尼崎市
7: 歴史	中浜新田は市城南西部、道意新田の地先に開発された。道意新田が宝暦10年（1760）に開発を出願し、天明2年（1782）に検地高50石で高入れした。当初は道意新田の庄屋の支配を受けたが、文政5年（1822）分村入りがおこり、文政7年の和解で中浜新田の独立性が大幅に認められた。また中浜新田では、同一の土地に対して上土権と底土権という二つの所有権が重なって存在する「畑砂慣行」が見られる。 杭瀬村は市城南東部、左門殿川の西岸に位置する。尼崎城下大物町に隣接する。元和3年（1617）以降、明治に至るまで尼崎藩領であった。
8: 伝来	昭和60年（1985）6月に古書籍商より購入、平成14年（2002）2月に整理・目録作成を完了した。
9: 史料入手先	古書籍商
10: 点数	3点（目録件数3件）
11: 年代	天保9年（1838）～安政4年（1857）
12: 構造と内容	本文書群はすべて金融関係の史料である。うち2点は土地を抵当とした借銀証文であるが、残り1点は杭瀬村中西氏のおかげにて頼母子講をおこない、借用元銀の返済ができたことに対する礼状である。
13: 関連史料	-
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	中村由佳